




平成31年3月26日

平成30年度版 特別の教育課程編成・実施報告書

群馬 都・道・府・ 			
学 校 名	管理機関名	設置者の別	校種
嬭恋村立西部小学校	群馬県教育委員会	国・  ・私	 ・中・高・中等

1 特別の教育課程の編成	
(1) 教育課程の基準の特例の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校3、4学年において、「外国語活動」を35時間実施する。</li> <li>・小学校5、6学年においては、「英語科」を70時間実施する。</li> <li>・第3、4学年は「総合的な学習の時間」を年間20時間削減して、「英語科」20時間分に充てる。</li> <li>・第5、6学年は「総合的な学習の時間」を年間20時間削減して、「英語科」20時間分に充てるとともに、「外国語活動」を年間50時間削減して、「英語科」50時間に充てる。</li> <li>・教育課程全体は、教育課程表参照</li> </ul>
(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性	<p>本校は浅間山や四阿山に囲まれた標高800m～1000mの広大な高原地帯に位置し、広く豊かな心を育むには適した環境の中にある。しかし、IT機器の発達により情報化社会となった現代を生きる子ども達には、更に主体的に物事にはたらきかけ、正しく判断できる力を養っていく必要があると考えている。</p> <p>4年間の英語教育地域拠点事業の指定を受け、本校職員の指導力や子ども達の英語（外国語活動）に対する興味や「話す力」「聞く力」は確実に高まってきている。中でも子ども達の友達と積極的にコミュニケーションを取ろうとする意欲・態度は飛躍的に向上してきていると感じる。</p> <p>このような現状の中で、移行期間の2年間の外国語活動、英語科の授業時数では指定を受けていた4年間の取組から減退することになってしまう。更なる進化、発展させるためにも、今までの指導時数は必要と考える。</p>
2 取組の期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特例の適用開始日 : 平成30年 4月 1日 (構造改革特別区域認定による特例の適用開始日: 平成 年 月 日)</li> <li>・変更した特例の適用開始日:</li> <li>・取組の終期 : 令和2年 3月31日</li> </ul>
3 特別の教育課程に基づく教育の実施状況	<p>(1) 実施体制</p> <p>1年生から4年生までの外国語活動や5・6年生の英語科において、英語科担当教員、ALT、学級担任によるTT指導を実施した。指導内容については、英語担当教員が中心となって学習内容案を作成し、ALTや担任とミーティングを行って共通理解を図ってきた。英語担当教員が中心となることで、指導内容に一貫性を持たせることができた。また、実態把握に基づいた系統的な指導を展開することにもつながった。</p> <p>また、ほとんどの学年が2クラスずつであり、合わせても40人前後であることを生かして、2ク</p>

ラス合同で英語の授業を行ってきた。このことにより、児童は様々な友達の知らなかった情報に触れる機会を増やすことができたと考えている。

## (2) 指導計画及び授業の内容

県の英語教育カリキュラム案を基に、地域性や子ども達の実態から検討して年間指導計画を作成した。毎時間の導入では英語でのあいさつや歌、チャンツなどに取り組むことを繰り返すことで、英語に慣れ親しむ時間を十分に確保してきた。

具体的な指導計画としては、例えば、低学年ではクリスマスカード作りや絵本を用いて読み聞かせを行うなどアルファベットに楽しみながら触れる活動を取り入れるようにした。中学年では「What's this? これなあに?」「What do you like? 何が好き?」といった単元で、クイズを出したり、友達自身のことを簡単に尋ね合ったりする活動を取り入れてきた。「My Best Memory 小学校生活・思い出・行事」「I like my town. 自分たちの町・地域」といった単元で、自分の考えや意見を伝え合う活動を中心にしてきた。

そして、これらの活動に取り組ませる中で、日本語では言いにくいことも英語なら比較的尋ねたり答えたりすることがしやすいことや文化の違いなどを教師が意識的に取り上げ、伝えてきた。これらの活動を通して、子ども達にはコミュニケーションをとる楽しさを実感させながら、英語科が目指す目的を養うことができたと感じている。

## (3) 児童・生徒への教育上の配慮等

低学年からの英語教育を導入するとともに、校内研修では日本語（国語）教育の充実を図り、英語・国語による語学力の向上を推進してきた。また、階段や廊下にアルファベット文字を掲示するなど学校生活のあらゆる場面を通して、英語に触れられる環境作りに努めてきた。さらに、日常のあいさつ等の中でも簡単な英単語を積極的に用いるなど言語活動の充実にも努めてきた。これらのことにより「英語科」の学習とその他の学習が相乗効果となって表れることを期待している。

「英語科」の内容としては、全学年ともALTがTT指導を行えるようにすることで、より質の高い表現、発音に触れられるようにした。また、積極的なコミュニケーションを促していくため、必然性や有用性のある活動を組み込むとともに、コミュニケーション活動を通して、外国の習慣や文化を日本のものと比較しながら触れられるようにし、それぞれへの考えを深められるようにしてきた。

## (4) 情報提供の状況

### <保護者や地域へ>

- ・学校だよりや学級通信、Webページ、保護者会等により、これまでの指導上の成果や今後の取組を随時発信してきた。

### <教職員へ>

- ・校内の全教職員を対象とした英語指導に係る研修会を実施し、新に赴任した教師も同じ歩調で指導に当たれるようにしてきた。
- ・中学校区内の英語担当等と定期的に連絡を取り取組の成果や課題点を整理しながら授業改善に努めてきた。
- ・指定校としての公開授業では、郡内外からの参観者を得ながら授業参観と研究会を実施し、研究内容や実際の取組について発信してきた。

### <公開記録>

- ・ H30.10 指導主事訪問の際に中学校区内の各園・校の先生方への授業公開
- ・ H31.2. 学校評議員への授業公開

#### 4 実施の効果、課題と今後の取組

##### (1) 実施による効果

- ・ 毎年、実施してきたアンケート調査では、「英語の授業が好き」と答える児童の割合が年々増加している。その理由としては「英語が少しずつ話せるようになってきていることが嬉しい」「英語の活動内容が楽しい」といった内容が上位を占めている。このことから、子ども達の英語に関する興味・関心は一層高まっているとともに、友達とコミュニケーションを取ることで自分自身であったり、一緒に学び合ったりしていく楽しさを実感させることができた。
- ・ 英語担当教諭が一人配置され、授業計画を立てたり、各担任とALTとの打合せを調整・リードしたりしてきたことで、各担任の負担が半減された。特に、授業づくりについては各学年の各単元において使用する教材が開発され、興味・関心を高めることにつながったと感じている。指導面でもめあての提示から本時のまとめまでの基本的な流れや細かな約束事が確立され、本校に移動したばかりの教員も同一の歩調で指導できるようになった。また、年間計画や各学年の具体的な指導を系統的な視点から見直すことができた。
- ・ 英検 jr の結果 正答率： 90 以上 17/40 人 (100 二人含む) 80 未満 5 人  
CSE スコア： 190 以上 14/40 人 100 以下 2 人

##### (2) 課題と今後の取組

児童の興味・関心を引きながら緒活動に取り組む中で、「話す力」「聞く力」を養えるような学習展開が小学校では可能であった。中学校では、高まった興味・関心や話す力等を意識しながら中学の英語教育をスタートさせる事が大切であるため、中学校との連携をより強化していきたい。

また、新しい教科書「We can」の単元づくりを「Let's try」の計画を基に作成し、実施しているが、まだ、前回のような教材が整っていないので、同時進行しながら常に魅力的な教材開発を心掛けていくことも必要であると感じている。

## 【特別の教育課程を編成・実施する学校一覧】

(小学校 2校)

学校名	設置者の別	学校種
孺恋村立東部小学校	公立	小学校
孺恋村立西部小学校	公立	小学校

※複数校が同一の「特別の教育課程編成・実施計画」により特別の教育課程を編成・実施している場合、その学校名をすべて記載する。

## 【担当者】

## 1. 管理機関

名称	孺恋村教育委員会
住所	〒377-1692
連絡先	電話番号 0279-96-0544 FAX番号 0279-96-0516 E-mail(代表) kyouiku@vill.tsumagoi.gunma.jp
担当者	所属・職名 孺恋村教育委員会 学校教育係 宮崎 武美

## 2. 都道府県教育委員会/都道府県私立学校主管課

名称	
住所	〒
連絡先	電話番号 FAX番号 E-mail(代表) (担当者)
担当者	所属・職名